

---

# Lost Worlds

傍観者

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

Lost Worlds

### 【Nコード】

N4475Z

### 【作者名】

傍観者

### 【あらすじ】

世界初のVRMMORPG「ロスト・ワールズ」  
失われし世界は再び息を吹き返す。

キャラ強すぎねとか敵よわWWとかが過分にあります。

閲覧の際はご注意ください。

話の中で戦闘が書けなくてほとんどないです。

ご了承ください。

話の大筋は似ておりますが、前作「ロスト・ワールド・フロンテ  
ィア」とは違う物としてお読みください。

## ロスト・ワールズについて

世界初のVRMMORPG「ロスト・ワールズ」

昨今急成長を見せるVRゲーム市場。

当初は医療目的だった技術も今やゲーマー達の物となった。

そんなVRゲームだが、五感の適度な遮断などが出来なかったため発売されなかったRPG類。

しかし数多くのVR技術者の英知を結集し完成へと至った。

それが今、ついに世界に解き放たれる。

魅力的なスキルの数々、プレイヤーの動きが攻撃となるシステム。

世界で10万台の先行発売。

君はこの幸運に有りつけるか!!

・ロスト・ワールズについて

ロスト・ワールズでは遠い昔に失われた5つの大陸を開拓するゲームです。

ロスト・ワールズは5つの大陸と10の小島から出来ています。

各プレイヤーは1人または他のプレイヤーと協力してその広大すぎる世界を完全にみることを目標とします。

マップ機能はプレイヤー自身が通ったところとその半径5m、NPCから買ったマップのみしか描かれずモンスターの奇襲などが存在します。

(PKは存在しませんのでご安心ください)

NPCマップはリアルマネーでのご購入となります。

他のゲームのようにシナリオなどはなく必ずしなくてはならないのはチュートリアルのみとなっております。

ご自分のプレイスタイルをお探し下さい。

・職、スキル、魔法について

職は初期で戦闘6、生産6の計12あります。

LV上限は500でコストすれば転職が可能です。

上位職に転職した場合LVは1、ステータスは引き継ぎます。

ステータスポイントはHP、MPがLV×100ポイント

STR、SPD、TAF、INT、DEX、LUKは(LV+1)

× 5ポイント振れます。

このステータスがスキル、魔法の必要値を武器防具抜きで満たしていた場合そのスキル、魔法を習得できます。

覚えたスキルは街の中でスキルスロットに登録しなければ使えません。

スキルスロットはパッシブスキルで10個、アクティブスキルで10個しかありません。

また戦闘中に入れ替えることは不可能です。

スキル、魔法には熟練度があり使用するほど上昇します。

・デスペナルティー

一定期間の経験知取得不可

所持金の十分の一以下のドロップ

・最後に……………

世界初のVRMMORPGという事で予期せぬ出来事が起こります

(.....)。

死ぬ事だけはありませんのでご安心ください。

また、バグやチートなどを発見致しましたらGMコールにてお知らせください。

ロスト・ワールズをお楽しみください。

## ロスト・ワールズについて（後書き）

今回もなかなか更新できませんがよろしくお願いいたします。

## 第1話（前書き）

ここから世界が動き出す。

## 第1話

「煉夜、すまないな。」

「いいだよ、父さん。これが一番可能性があるんだろ？」

「ああ。だが……入ったら1年は会えないんだぞ？」

「仕方ないだろ。さっさと治って遊びたいんだ。」

「そうか……。そうだな。じゃあまた。煉夜。」

「ああ。またな、父さん。」

俺は紅くれない煉夜れんや。

高校3年だった。

後一カ月で大学と言う時に飲酒運転の車に突っ込まれて足がボキボキ。

高校に行けるわけもなく停学中。

もしかしたら退学してるかも。

大学も浪人だな……

それを治せるってことでこのVRカプセルに入る。

このVRカプセルってのはカプセルの中に入って特殊な液体で治してる間VRの世界で生活してくださいって奴。

VRゲームが出来るらしいからいいけど。

この中に入れば1年は出てこれない。

だが治るかもしれない。

だから入る。

カプセルに入るとすぐに液体に浸された。

「リンク・オン」

そう呟いてVRゲームを選ぶ。

元々廃がつくほどのゲーマーだからこれはラッキーだな。

選んだのは「ロスト・ワールズ」

まずは、一番でも目指してみるか。

## 第1話（後書き）

投稿しました。

よろしくお願いします。

## 第2話（前書き）

誤字・脱字・この言葉の意味がわからない等ございましたら報告よろしく願います。

## 第2話

『ようこそ、ロスト・ワールズへ。』

世界へ降りる前にキャラクター作成を行います。

クイック作成かカスタム作成。

どちらにしますか？』

そこに降り立つとすぐに話しかけられた。

キャラクタ 作成はカスタム作成で細かく作る。

『容姿、性別、名前、属性、職、ステータスを決めて下さい。』

そんなに！？

容姿は現実の事故に遭う前の容姿。

うーん……ゲームだしいや。

髪を遠くからだと黒に見えるような紅色にする。

近づいても黒っぽく見えるし……

目は……緑？

濃い緑。

ゲームだからいいだろ。

顔？

中の上くらい。

えっ？どうでもいい？

きにするな。

性別 男

これから1年も女で過ごすそうとは思わない。  
癖がつきそうで怖い。

名前 カールレイト

由来？

苗字の紅をスペイン語にするとColorate。  
読みが分からなかったから適当に読んでカールレイト。  
え？めちやくちやだなつて？  
気にしたら負けだ。

属性かゝ。

何々？

火・水・風・土・光・闇・氷・雷の中からか。  
んゝゝゝゝゝ雷。

熟練度が上がり難いつて書いてあるからwww

職

これは剣士・戦士・魔法使い・神官・アーチャー・盗賊が戦闘職。  
調合士・薬剤師・鍛冶師・裁縫士？・木工技師・技師が生産職。  
剣士で。

生産職は嫌だし、魔法系は無理。  
直接攻撃がいい。

ステータス

HP：100 MP：0

STR（物理攻撃）：2

SPD（攻撃速度）：3

T A F (物理防御) : 2  
I N T (魔法攻撃) : 1  
D E X (クリティカル率) : 1  
L U K (宝箱等の出現率) : 1

軽めの魔法なら使えた方がいいだろう。

『初期装備を選んでください。』

その途端あたりに光が広がり大量の武器が現れた。

え〜と……

このごちゃっと現れた中から選べと……

片手持ちで両刃の剣に軽くて動きやすそうな鎧……

剣は刀身が微かに黄色く柄の部分に黄色い石が嵌っており鞘は黒い物。

鎧は鎖帷子っていうのかな？

皮製だけど鉄板が仕込んであって鎖をその上から巻いてあり防御力は高そう。

でも動きやすそうな物。

『確認します。』

名前 カールレイト 性別 男 属性 雷 職 剣士

L V : 1

H P : 100 M P : 0

S T R : 2

S P D : 3

T A F : 2

I N T : 1

DEX : 1

LUK : 1

これでよろしいですか?』

よし。問題はない。OKつと。

『特性    ???・???・???・???取得』

は?特性?

『特殊スキル    ???・???取得』

何も取った覚えないけどなあ?

『それではこれよりロスト・ワールズを開始します。  
煉夜 楽しんでから帰ってこい。父より。』

えっ?父さん?

そう思った時には意識を失っていた。

## 第2話（後書き）

第2話投稿。

頑張って書きます。

### 第3話

気がつけば喧騒の真つただ中にいた。

つて五月蠅い！

耳がもげる！？

あわてて裏路地に飛び込んだ。

落ち着いたところでメニュー画面を出してステータス、イベントリ、スキルを確認する。

スキルスロットにPS及びASを登録した。

まずは街を見て回る。

迷子なんて嫌だからな。

そう心の中で言いながら裏路地へと入りこんだ……

約3時間

つつ、疲れたあ。

まさか最初の街がこんなにも広いとは思ってなかった。  
武器屋だけでこの街の中に4軒。

防具屋も4軒。

道具屋は屋台(?)も合わせると10軒を超えていた。

気がついてみればチュートリアルも残すところあと5つ。

『チュートリアル9/13 モンスターを倒そう。』

内容は簡単。

街の外に広がっている草原。

そこを荒らすイノシシ型のモンスター「ボア」を3体倒せというものの。

まずは街の外に出るか……

で……門ってどこ？

やっ、やっと出れた……

まさかあれだけ街を見て回りながら迷うとは……

恐るべし最初の街「リルムリア」

門はさつき出ようと思ったところから道をまっすぐ行けば良かったみたいだ。

なぜだ。何故なんだ。

何故俺はマップ機能に気付かなかった！

門を見つけた時は恐らく暗いオーラでも出てたんじゃなかるうか。それぐらい落ち込んだ。

さあ、気を取り直してボアを殺りますかあ！？

(テンションが終わってます。)

街を出て思ったこと。

プレイヤー少なさ！

何故だろう？

現在時刻午後11時42分。

そりゃいねえわ。

こんな時間までVRMMOできる人なんてほとんどいないだろう。

ステータス

名前 カールレイト 性別 男 属性 雷 職業 剣士

LV 3

HP : 250 MP : 50

STR : 4

SPD : 6

TAF : 3

INT : 2

DEX : 3

LUK : 2

スキル

スキルスロット

PS

ソードマスタリー 剣装備時攻撃力上昇

気配察知 マップ内のみモンスター及びプレイヤー位置判明

ハイディング 気配察知で見つかり難くなる

スキルスロット

AS

ソニック 高速斬撃

ソニックストライク 高速四連撃

### 第3話（後書き）

第3話投稿です。

誤字・脱字などありましたら報告お願いします。

## 第4話（前書き）

誤字・脱字などありましたらご報告お願いします。

## 第4話

街を出てすぐのところにそいつはいた。

確かに猪だ。

カールレイトは苦笑しながらそいつを目で追った。

誰がどう見ても猪と言っただろうそれは1人のプレイヤーによって白いポリゴンへんにされ砕け散った。

へえ。ああやって消えるんだ。

カールレイトは自らに向かって突進してきたボアを右奥に一步踏み出すことで回避。

そのまま剣を抜き放ちざまに斬る。

だがそれは、ボアのHPをわずかに3割ほど削っただけだった。

剣を構え少しためる。

何かに操られているような感覚がしてくると同時に剣に青白い光が宿る。

ボアが再び突進してくるのに合わせて剣を振る。

スキル「ソニック」

青白い軌跡を描きながら剣は先程とは比べ物にならない速さでボアの頭に吸い込まれていった。

グキイイイイイイ……

そう呻いたように叫ぶとボアは白いポリゴンへんとなって砕け散った。

その途端頭にシステムメッセージが流れる。

『ボアの毛皮を入手しました。』

このスキルシステムがしっくりきたのかカールレイトはその後3時間ほど狩りを続けた。

ステータス

LV14

HP：1200      MP：200

STR：14

SPD：20

TAF：12

INT：9

DEX：13

LUK：7

スキル

スキルスロット

PS

ソードマスター 35 / 1000

ハイディング 28 / 1000

気配察知 24 / 1000

体術マスター 体術使用時攻撃力上昇 12 / 1000

スキルスロット

AS

ソニック 23 / 1000

ソニックストライク 14 / 1000

バーチカルソニック 高速重斬撃 5 / 1000

ア ロ ー	ラ イ ト
魔 法	魔 法
矢	光 球
3	0
/	/
1	1
0	0
0	0
0	0

## 第4話（後書き）

感想お待ちしております。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4475z/>

---

Lost Worlds

2011年12月18日00時51分発行